

## 変更箇所について

2 P

(変更前)

- その後、学校等の始業開始時期にあたる 1 月上旬以降急速に流行が拡大し、2012 年第 5 週（1 月 30 日～2 月 5 日）における定点当たり報告数は 42.62 となり、1 週間あたりの定点の値としては、インフルエンザの発生動向調査が始まった 2000 年以降の 12 シーズンの中では、2005/2006 シーズンに次ぎ 2 番目の高値となった。

※定点当たり報告数の最高値は、2006 年第 9 週（2006 年 2 月 27 日～3 月 5 日）の、50.07 であった。

(変更後)

- その後、学校等の始業開始時期にあたる 1 月上旬以降急速に流行が拡大し、2012 年第 5 週（1 月 30 日～2 月 5 日）における定点当たり報告数は 42.62 となり、1 週間あたりの定点の値としては、感染症法に基づくインフルエンザの発生動向調査が始まった 1999/2000 シーズン以降の 13 シーズンの中では、2004/2005 シーズンに次ぎ 2 番目の高値となった。

※定点当たり報告数の最高値は、2005 年第 9 週（2005 年 2 月 28 日～3 月 6 日）の、50.07 であった。

4 P

(変更前)

- 今シーズン(2 月 5 日まで)の 15 歳未満の小児における受診割合は他の年代よりも高く、これは前シーズン、前々シーズンと同様の傾向となっている。
- 今シーズン(2 月 5 日まで)の 0 歳以上 70 歳未満の方の受診割合は前シーズンの受診割合を下回っている。
- 今シーズン(2 月 5 日まで)の 70 歳以上の高齢者の受診割合は前シーズン及び前々シーズンを通じた受診割合を上回っている。(図 4～6 参照)

(変更後)

- 今シーズン(2 月 5 日まで)の 15 歳未満の小児における人口に占める推計受診者数の割合は他の年代よりも高く、これは前シーズン、前々シーズンと同様の傾向となっている。
- (削除)
- 今シーズン(2 月 5 日まで)の 70 歳以上の高齢者における人口に占める推計受診者数の割合は前シーズン及び前々シーズンを通じた割合を上回っている。(図 4～6 参照)

5 P

(変更前)

- 前シーズンと比較すると、今シーズンは、60歳以上の方の占める割合が若干多い。

(変更後)

- 前シーズンと比較すると、今シーズンは、60歳以上の方の占める割合が昨シーズンの2倍程度となっている。

7 P

(変更前)

- B型については、ビクトリア系統と山形系統が検出されている。

(変更後)

- B型については、ビクトリア系統と山形系統が検出されており、徐々に検出割合が増加している。

8 P

(変更前)

- 入院患者の性別については、男性 2222 例、女性 1896 例であり、男性が若干多い。

(変更後)

- 入院患者の性別については、男性 2222 例、女性 1896 例となっている。

9 P

(変更前)

- 重症患者の性別については、男性 344 例、女性 251 例であり、男性が若干多い。

(変更後)

- 重症患者の性別については、男性 344 例、女性 251 例となっている。

10 P

(変更前)

- 入院患者については、10歳未満の小児及び70歳以上の高齢者の割合が高い。
- 重症患者については、1歳以上10歳未満の小児及び70歳以上の高齢者の割合が高い。

(変更後)

- 入院患者については、10歳未満の小児及び70歳以上の高齢者の数が多い。
- 重症患者については、1歳以上10歳未満の小児及び70歳以上の高齢者の数が多い。

1 1 P

(変更前)

- 1 歳以上 10 歳未満の小児においては、他の年代に比して、入院患者の重症割合が若干高い。

(変更後)

- 1 歳以上 10 歳未満の小児においては、他の年代に比して、入院患者に占める重症患者の割合が若干高い。

1 2 P

(変更前)

- 頭部検査については、1 歳以上 10 歳未満の小児の割合が非常に高い。

(変更後)

- 頭部検査については、1 歳以上 10 歳未満の小児での実施の割合が非常に高い。

1 4 P

(変更前)

キ. 年齢階級別にみた頭部検査利用重症患者における検査別構成割合

頭部検査の報告のあった重症患者における、1)頭部 CT 検査、2)頭部 MRI 検査、3)脳波検査の構成割合について、年齢階級別に図 13 に示します。

- 全体的に、頭部 CT 検査の割合が高い。
- 脳波検査については、1 歳以上 15 歳未満の小児の割合が高い。

(変更後)

キ. 年齢階級別にみた頭部検査利用重症患者における検査別構成数

頭部検査の報告のあった重症患者における、1)頭部 CT 検査、2)頭部 MRI 検査、3)脳波検査の構成数について、年齢階級別に図 13 に示します。

- 全体的に、頭部 CT 検査の数が多い。
- 脳波検査については、1 歳以上 15 歳未満の小児の数が多い。

4 P 図3：縦軸ラベル名

(変更前)

受診割合

(変更後)

割合

11 P 図10：縦軸ラベル名

(変更前)

入院患者の重症割合

(変更後)

割合

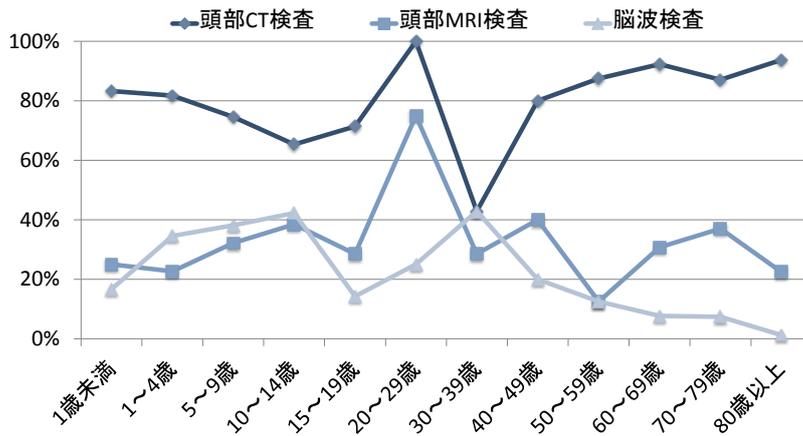
9 P、12 P、13 P、14 P

枠の中に、「※頭部検査に含まれる検査は、頭部 CT 検査・頭部 MRI 検査・脳波検査。」を追記。

表の差し替え

(変更前)

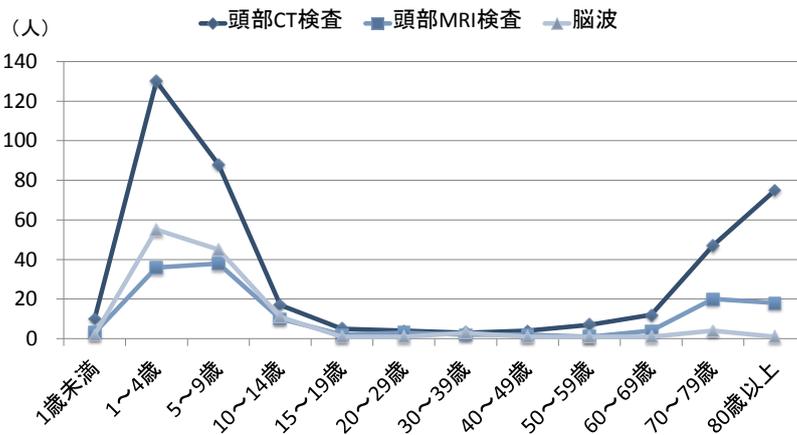
図13 年齢階級別にみた頭部検査利用重症患者における検査別構成割合(2011/2012シーズン)



\*平成23年9月5日から平成24年2月5日の報告まで  
出典:厚生労働省(入院サーベイランス)

(変更後)

図13 年齢階級別にみた頭部検査利用重症患者における検査別構成数(2011/2012シーズン)



\*平成23年9月5日から平成24年2月5日の報告まで  
出典:厚生労働省(入院サーベイランス)